在京石鳥谷 町人会だより

（題字　旧石鳥谷町長　高橋 公男　氏）

在京石鳥谷町人会だより
連絡所
在京花巻ふるさと会事務所内
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 4-4-8 東京中央ビル 603 号室
TEL　03-6256-8082
FAX　03-6526-8083
事務局 〒187-0031 東京都小平市小川東町 1817-39 大竹雅夫方
TEL：FAX 042-332-3025

ごあいさつ

在京石鳥谷町人会
会長　高橋 弘美

会員の皆様こんにちは。高橋弘美でございます。

皆様におかれましてはお健やかにお過ごしのこととお慶び申し上げます。

平成28年の秋号となる「町人会だより」をお届けするにあたって、平素より皆様から寄せられたご支援、ご協力に対しまして厚く御礼を申し上げます。

さて平成28年の夏はどのようにお過ごしでしたでしょうか。今年も全国的に猛暑の夏となりました。私が勤務しております大阪も気温が35度を超える猛暑日が8月中で23日を数えるに至り、観測史上最多となる大変暑い夏となりましたが、もう一つ熱いことがありました。それは日本中がおおいに熱く沸いたリオ五輪でした。開催前は関係工事の遅れ、治安の悪化、デング熱の懸念、テロの危険性などで開催そのものが危ぶまれる報道もありましたが、いざ開催して見るとやはりメジャー中のメジャーイベントということもあり世界の注目度もアップしていきました。特に日本人選手の大活躍により日本中が熱狂したような最高の気分に浸ったのは私だけではなかったと思います。皆さんはどのメダル獲得シーンが心に残っていますでしょうか。そして夏といえば招かれざる客、台風が襲来します。今年の台風はいろいろと話題を振りまきました。まず1月から6月まで一個も発生せず第1号の発生は7月3日で、これは記録上2番目に遅いとのことですが、8月に入って急増し7号・9号・11号がたて続けに北海道に上陸しました。北海道に1年に3回上陸したのは統計開始以来初めてとのことです。私は迷走台風というのは聞いたことがありますがUターン台風というのは初めて聞きました。それが10号でした。八丈島付近で発生したことも珍しいのですが、南西に進んだのもいつもと全く逆で珍しい。それが南大東島付近からUターンしてきてなんと岩手県大船渡市付近に上陸。東北の太平洋側に直接上陸するのは観測史上初めてとのこと。異例ずくめの台風状況でしたが、残念ながら10号では岩手県にも大きな被害が発生しました。自然災害の備えは万全に、避難等はたとえ空振りでも早め早めに判断する重要性を改めて思い知らされたことでした。

そんな振幅の激しかった夏も過ぎ、今ふるさとは豊穣の秋を迎えていることと思います。秋といえばやはり在京石鳥谷町人会総会・親睦交流会です。今年は創立28周年となります。親睦交流会での目玉の郷土芸能は八重畑地区の五大堂神楽の皆さんがお越し下さることになっております。毎年ふるさとから駆けつけて下さる皆さんを気持ちよくお迎えして、深く親睦を図るのが当会の目的の一つでもあります。また今年もふるさとの協賛企業の皆様から暖かいご支援の品を頂戴することになっております。

本当にありがたいことであります。是非会員の皆様には多くの方のご出席を頂いて、ふるさとからのご支援に感謝しつつ会員相互の親睦も深めて頂きたいと思います。

これからも幹事一同頑張って参りますので、引き続き皆様のご協力、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

28年度 田んぼアート
“セロ弾きのゴーシュ”

大興奮！
〝日本橋お花見クルーズ〟
―町人会下町散策に参加して―

菊地　勝江
好地出身

幼い頃熊野神社の満開の桜の下で祖母が言いました「桜ッコをひとりボッコで見るような大人ッコになってはワガねんだよ・・・」32歳で夫を亡くし女手一つで子らを育てた祖母。桜の季節になるとあの時の、優しいような哀しいような祖母の横顔を想い出します。

そんな中、町人会の恒例行事、下町散策のお知らせが。今回は〝日本橋お花見クルーズ〟初めての参加にドキドキでしたが思い切って申し込みさせてもらいました。

さて4月3日。桜の他にチラホラと咲いた傘の花が気になりましたが、幹事さんの「乗れば晴れるべ!!」・・・？

とっても力強い石鳥谷弁に背中を押され乗船、船はオープンエアで広々、何より船上ガイド女史が講談師顔負けの名調子、心ワクワク約一時間のミニクルーズがスタートしました。早速の川面から見上げる日本橋の雄々しさといったら。技術力と美しさは昔人の新都に賭ける熱量そのもの。

永代橋を抜けた途端、今度は超高層マンション群。まん中にスカイツリーが〝こんにちは〟一瞬にして江戸末期から現代にタイムスリップできるのも船の醍醐味。

大きな隅田川から今度は小さな大横川へ。「ヒャーおっかねじァ～!!」桁下の低い橋がいくつもあってその都度かなり身を屈めないと頭を直撃しそうで恐い。けど大騒ぎしながらこれも又楽しい。

さてさて頭を出したり引っ込めたりしているうちに船はスッポリと桜のトンネルに入ってました。感動！どこを見ても桜、さくら、サクラ。深川の桜並木のなんと美しいこと。船中から手が届きそうな桜の梢のかわいらしさ。船もエンジンを止めてくれて、ゆらりゆらりと春うらら・・・と、その時「あ～酒ッコ飲みたくなったなぁ～」深川に石鳥谷弁がこだまします。

さてもや東京証券取引所等を横目に日本橋に戻りクルーズは終了。

下船するや否や一行は幹事さんが予約してくれていた中華飯店に。乾杯のビールの美味しさは言うまでもありません。

花に酔い、お酒に酔い、そしてふるさとの訛りに酔いしれて、最高の一日でした。

幹事さん、町人会の皆さん本当にありがとうございました。散会してから帰り道どこからともなく祖母の声を聞いたような・・・「今年の桜ッコ、皆さんと見れてイガッタなはん・・・。」

船上名ガイド女史の案内に耳を傾ける

深川さくらまつりの横断幕

両岸の桜並木は丁度見頃の満開の時期でした

もう少しで頭さぶつかりそうだったじァ～

桜花と美女の笑顔は正に ❀ 花・華・ハナ✿

お花見クルーズを堪能して全員で記念撮影

高層ビル群と桜並木のアングルは絶景でした

ふるさと復興支援ツアー記

柳原　政義
八幡出身

去る5月20日～22日、在京花巻ふるさと会の東和町友会が幹事役で〝第6回ふるさと復興支援ツアー〟が実施され、東和町の文化に触れ、最終日は陸前高田の復興状況を総勢43名で見てきました。わが石鳥谷町人会は会員の知人を合わせ10名が参加しました。

お花見の余韻を胸中にカンパ～イ！

東和町友会の蟹澤会長の軽妙かつユーモアたっぷりの語りでバスは滑り出し、先ず最初に一関の偉人大槻磐理が「乗りて探らん猊が鼻」と歌った新緑の猊鼻渓を楽しみ、宿は金矢温泉ホテルで、上田市長、小原市議会議長、佐々長醸造の佐々木社長よりご挨拶を頂き、東和の神楽を堪能しながら会食しました。

二日目は円満寺より花巻市を一望し豊かな自然の花巻を再認識し、花巻駅より遠野まで超人気のＳＬ銀河に乗車し、沿線の人々から手を振って歓迎してもらい岩手の暖かい心に触れ感激最高潮！　次に東和の由緒ある丹内神社境内で〝丹内獅子躍〟の踊りに郷土芸の極みを再発見後、ベートーヴェンの田園を聴かせて味噌・醤油を成熟させる佐々長醸造工場見学し、民話の故郷、遠野のたかむろ水光園に泊まり歌や踊りの盛り上がり大宴会に一同感激。

最終日は二度目の訪問でしたが陸前高田の復興現状を地元醤油屋の河野さんのガイドで自然の猛威・人間の力の小ささを再び学びました。２万４０００人中１８００人が犠牲になり、尚２００人が未だ不明との話と気高く立つ「奇跡の一本松」の説明に涙を流し、一同更なる早い復興を祈り帰路に着きました。

車中は蟹澤会長手作り景品のクラフト争奪戦ジャンケン大会等で盛り上がり、東和町友会の皆さんに感謝し再会を約束してお別れしました。

蟹澤会長と一緒に

第三十一回 在京花巻人のつどいに参加して

荒瀬 富姫子
八日市出身

7月17日(日)東京ガーデンパレスにて開催された「在京花巻人のつどい」に参加しました。会場には見知った顔の方々がいらして再会を喜び合いました。

会は瀬川会長のご挨拶から始まり花巻からは副市長の亀澤さんよりふる里の近況が語られました。

さみしいのは、マルカンデパートが閉館したこと。しかし小友木材の若社長が「㈱花巻家守舎」を立ち上げて再建に向けて奮闘努力している事、私達もできる範囲内で協力したいものです。会はなごやかに進み、アトラクションは、**「金津流横浜獅子躍」**が披露されました。リーダーは何と福岡県出身で獅子躍に魅了された有志を募り、現在に至るとのこと。地元でも後継者が少ないなか、素晴らしい。獅子躍は一般向けの踊りと、ストーリーがある演舞があると初めて知りました。(このお話しは二次会での大先輩からお聞きしたものです)今まではただ見ていただけの郷土芸能でしたが、次からは意味を知って観ることにしたいと思います。また新しい出会いがあり、楽しい時間を過ごさせて頂きました。

平成28年7月17日 第31回 在京花巻人のつどい 於て・東京ガーデンパレス

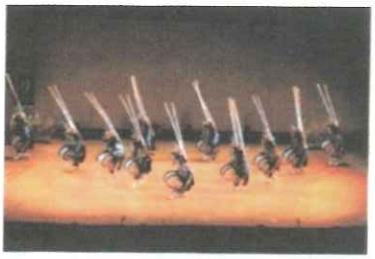
高校総合文化祭ｉｎ群馬の想い出

伊藤　精司
新堀出身

荒瀬さんが「花巻人のつどい」に参加されての文面に目を走らせながら、平成20年8月群馬県にて開催された「全国高校総合文化祭」に花巻農業高校鹿踊部が出場された時の想い出が蘇ってきましたので、当時の岩手日報より抜粋記事、花巻農業高等学校鹿踊部一同、及び同校鹿踊り部コーチからのお礼状を紹介させて頂きます。

『文化部のインターハイ・第三十二回全国高校総合文化祭』が群馬県前橋市を中心に県内各地で行われ、総合開会式をはじめ全二十四部門に参加した高校生は約二万人。本県は約三百六十人が十八部門に出場した。県勢は将棋部門男子団体で岩手高囲碁将棋部が優勝、郷土芸能部門で北上翔南高鬼剣舞部が最高賞に継ぐ優秀賞に輝いた。猛練習で部員難を克服して郷土芸能部門に出演した花巻農高鹿踊部は、部員不足の危機を乗り越えての晴れの舞台になった。阿部寛二部長(三年)ら二、三年生六人と、入学から約四ヶ月の猛練習で踊りを吸収した一年生十二人。郷土芸能に真剣に向き合う姿は、古里を離れて暮らす人にも深い感動を与えた。花巻市石鳥谷町新堀を離れて四十年過ぎた群馬県大泉町在住の伊藤精司さん(63歳)は、報道で同校の出演を知った。学校に問い合わせて宿泊先を確認、舞台発表の二日前の夜、飲み物を持って駆けつけた。同校のＯＢではないが、故郷の後輩たちが伝統芸能を発表する姿を見たいという思いに駆られた。本番も見た伊藤さんは、踊りを終えた部員が泣きながら反省する姿に「最近の子がこんなに真剣に取り組んでいるとは～…。鹿踊はしっかり受け継がれている」と感激した。入賞こそならなかったが鹿踊部の新たな挑戦が始まっている。阿部部長、他四人の三年生は「昨秋三年生が引退し部員不足を心配した。一年生が多く入部し、プレッシャーに負けず頑張ってくれたことに感謝する。秋の県大会へ腕と心を磨き、来年の全国総文祭にも送り出す」と思いをひとつにする。

＝平成20年8月13日付け
岩手日報より＝



栄えある全国大会の檜舞台で
わが郷土の伝統ある壮観な鹿踊りを披露
ー太鼓の音が館内一杯に響いて大迫力でしたー

鹿踊部宛に本番の演舞・集合写真と
励ましの手紙を送りました

◎花巻農業高等学校　鹿踊部一同

先日は大変お世話になりました。全国大会の応援ありがとうございました。差し入れのジュースは本番前にみんなで乾杯して飲みました。全国大会の結果はあまり良いものではありませんでしたが全国という貴重な舞台で演舞できた事を誇りに思い、10月に行われる県大会へ向けての練習を精一杯頑張りたいと思います。精司さんから頂いた手紙は部員一同の励みになりました。本当にありがとうございました。

◎花巻農業高校鹿踊り部
コーチ　高橋　安明

この度の藤岡では大変お世話になりまして誠に有難うございました。私は家の都合で行けなかったのですが、伊藤様をはじめ皆様の御支援にあずかり無事発表ができました。感謝申し上げます。～・・・。

全国大会後、三年生の一名が一般の「**金津流鹿踊団体**」に入りまして、もう一名希望者が居り、他に二名が仕事の一部で踊りを活用出来る所へ決まる様ですので三年生五名中四名が踊りを伝承してくれる様です。10月12日の北上市に於ける県大会

に向けて勇敢練習に励んでいます。
～・・・。

石鳥谷まつり と 復興支援ツアー

川村　三郎
好地出身

9月8日～10日の三日間石鳥谷まつりが開催されました。
来年の「ふるさと復興支援ツアー」は、在京石鳥谷町人会が担当する事になっており、その中に『石鳥谷まつり』も企画しています。
まつりでは、石鳥谷町で設営して下さる「特設席」で〝音頭あげ〟を受け、それぞれの組が繰り出す山車の巡行に暫し浸って頂きます。
復興支援ツアーは単なる郷里巡りの旅ではなく、被災地の傷跡を目の当たりにすると共に、復興に取り組むそれぞれの地域へエールを送り、併せてふる里の地の伝統に触れながら、参加者相互の触れ合いを図り、新たなる思い出の旅となりますよう企画を進めて参りますので、お一人でも多くお声掛け頂いてツアーに参加して頂きますようお待ち致しております。

今年のまつりの様子を岩手日日新聞の記事と写真で紹介します。

『南部杜氏の里・石鳥谷まつり』が9月8日～10日までの三日間にわたり石鳥谷まつりが開催された。歌舞伎の演目などを題材にした五台の山車が近づくにつれて、次第に太鼓や笛の音と「ヤーレ、ヤーレ、ヤーレ」の掛け声も大きくなった。神楽、鹿踊、さんさ踊りの披露なども行われた。

まつりには、地域の小中学生が吹奏楽やダンス、郷土芸能などで参加した。石鳥谷保育園の園児は元気いっぱいの「鹿踊り」で日ごろの練習成果を披露し、沿道から盛大な拍手を浴びた。

実行委の中村弘樹会長は、「園児や小中学生も含めた総参加の行事。山車の運行には地域のつながりを守る役割もある。途絶えないよう子供たちに伝統を受け継いでもらえれば」と話していた。

＝岩手日日新聞社の記事より抜粋＝

上組の山車

中組の山車

下組の山車

西組の山車

上和町の山車

鹿踊り

大瀬川のさんさ踊り

新堀小の神楽

＝写　真＝
在京石鳥谷町人会
副会長　川村　三郎　氏
撮影

郷土の偉人シリーズ　第三回
「武蔵の国に故郷の先人の跡を訪ねて」

川村　政義
新堀出身

韓国の女子教育に一生捧げた淵澤能恵の足跡（その二）

淵澤能恵が東京で生活した年数は、岩手在住時代、渡米から同志社女学校時代、韓国に渡って女子教育に捧げた時代を除くと概ね十四、五年になる。彼女の生涯からみれば五分の一にも満たない。今回は能恵の東京での足跡について前回に引き続き「履歴書」に記載されている事項を引用しながら調べて分かったことのみを紹介していきたい。

東洋英和女学校時代

（明治18年9月～19年11月）

能恵は、明治18年6月、同志社女学校を退学する。退学理由としては、在学生徒の証言では宣教師との確執があったとか、授業料の納付が滞ったとか言われているが、真偽の程は定かでない。

同年9月、履歴書には「東京市麻布鳥居坂東洋英和女学校教授奉職、同19年11月に至る」と記されている。当時の住所を厳密に言えば東京市麻布区鳥居坂十四番地である。

写真は現在の鳥居坂で、森の中の跡地はシンガポール大使館となっている。

同校の創立は同17年9月なので、ちょうど創立一年後に就任したことになる。この時期のことについて『東洋英和一二〇年史』によれば、「創

立後一年を経ずして校舎は手狭となり・・・増築を行い・・・それでも入学希望者はますます多く・・・」とあり、生徒数が急増した時期で教員も不足していたことが容易に推測できる。裏づけ資料を求め調査を開始したところ、世田谷区玉川に所属する東京都公文書館の情報検索システムにより明治18年6月22日起案の「東洋英和女学校教員増加願の件」という公文書を見つけた。早速同文書館を訪ね、該当文書にあったが能恵の名前は確認できなかった。

その後も裏づけをとるべく色々調べた結果、創立五十周年を記念して昭和9年に発行された『東洋英和女学校五十年史』に手がかりを得ることができた。これによれば、能恵は、「寄宿舎取締」という職名で明治19年頃にこの学校の職に就いたようである。どうも本人の書いた「教授職」ではなかったようである。

水沢出身で後に総理大臣となる斎藤実の妻となる春子は明治21年12月東洋英和女学校本科二年前期を終業（翌年中退）している。彼女は「私の回顧」としてこの年史に寄稿しており、そのなかに「・・・淵沢野恵子先生が米国からお帰りになりました・・・」という記述があり、この学校で能恵と接触があったことが裏付けられる。生徒の立場から言えば先生であることに間違いはなく、ここでは「教授職」であったとか、なかったとか、について詮索することはしない。

同校は以前、NHKの朝の連続テレビ小説「花子とアン」で一躍有名になった村岡花子の母校でもある。開校当時の生徒が二名だった東洋英和女学校は、現在、学校法人東洋英和女学院として幼稚園から大学校まで四千名を越す学院に発展している。

東京高等女学校時代（明治20年1月～）

能恵は明治19年11月をもって東洋英和女学校を退職する。履歴書には「明治20年1月、官立一橋高等女学校、米国人教師ミスプリンス通訳兼同女学校塾取締二従事ス」とある。ところが「一橋高等女学校」なる校名の学校を調べてみたが、がどの記録にもないのである。能恵について書かれた著書・論文等をみても、このことについてはどなたも問題にはしていないのである。前述の「東洋英和女学校教授」のように本人が書いた履歴書といえども記憶間違いはあることを前提に真偽を調べてみた。いろいろ調べてみたが結局国立公文書館に手掛かりがあった。キーパーソンは、米国人教師「プリンス」女史である。デジタルアーカイブに「文部大臣請議外国人雇入ノ件」トシテ次の記述があった。「米国人、イサベルラ・グラハム・プリンス、女。右の者東京高等女学校教師として月棒通貨七拾五圓ヲ以テ本年一月一日ヨリ十二月三十一日迄一ケ年間雇入度右請閣議候也。明治二十年一月十四日、文部次官　辻新次。内閣総理大臣伯爵　伊藤博文殿」。

この公文書により、雇い入れた人名、期間は能恵の履歴書の記述内容と一致しており、校名だけは「東京」と「一橋」が混同しただけのことと思われる。

この学校は現在の「お茶の水女子大学附属高等学校」の前身である。『お茶の水女子大学百年史』によれば明治19年6月19日に「高等女学校」から「東京高等女学校」に改称し、同年9月に神田区の旧体操伝習所跡に移転した旨記載があった。この地が現在どの場所にあたるか都立中央図書館所蔵の地図によって調べてみると千代田区一ッ橋二丁目にあたることが確認できた。誤記した理由は、この学校の所在地が現在の千代田区一ッ橋二丁目（当時は神田区一ッ橋通町）に置かれていたことに起因すると思われる。ここには現在、一橋講堂や共立女子大学などがある。

プリンス女史にとってみれば、能恵はアメリカ留学時代に面倒をみており、気心の知れた人物として、同女学校での通訳兼塾取締就任を希望したのであろう。

それ以後のこと

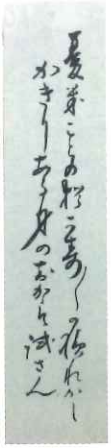
能恵が官立東京高等女学校にいつまで奉職したかは履歴書の上では分明でない。公文書上、プリンス女史との契約は明治20年12月31日迄となっており、この時点で能恵も一緒に辞めたのかあるいは継続したのか定かではない。いずれにせよ、明治22年5月以降、「東京麹町区上六番町二家塾ヲ開キ自宅教授及出教授二従事ス」と履歴書に記載のとおり、家塾を開き生計を立てていたようである。能恵の東京時代は私塾経営者や文具店経営者としての年数が圧倒的に長いが、これらの実態を調べるのは容易ではない。明治時代の私塾的なものについては、多少調べてはいるが、ここでは紙面の関係もあるので割愛することとしたい。

今回、淵澤能恵のことを調べているうちに、明治・大正時代、花巻地域出身で全国的に有名な女性がいたことを知り得た。

具体的には、島崎藤村の『春』や『桜の実が熟する時』の作中人物のモデルで、実際に藤村の初恋の相手であった佐藤輔子。その輔子を頼って「明治女学校」に学び、その後救世軍士官として著名であった山室軍平と結婚する山室機恵子。ノーベル賞作家である川端康成の初恋の相手である伊藤初代（『篝火』のモデルで父親が岩谷堂出身）。俳人の松本たかしと結婚する高田つや（二人の句碑が八重畑の広済寺にある）。等々である。いずれ機会があればこれらの女性のことについても紹介したいと思っている。

余録

一　次の書は能恵の書である。これは村上淑子氏の著書『淵澤能恵の生涯』の著書の写真からトレースしたものである。「憂きことの猶数々の積もれかし限りある身の力ためさん」という歌であるが、この歌の中に能恵の生き方が垣間見られるような気がしたので紹介した次第である。原作者は山中鹿之助とも熊沢蕃山ともいわれているが、能恵は歌詞を若干変えているようである。



《憂気ことの猶可寿くの積れかし
かきりある身のちから試さん》

二　前述の村上淑子氏の著書によれば能恵のお墓は複数存在することが記されている。そのうちの一つが東京の多摩霊園にも存在するとの記述があったので夏の暑い日に訪ねてみた。全国的に著名な人物ではないせいか、霊園で発行している案内パンフには残念ながら掲載されていなかった。村上淑子氏の著書には霊南坂教会での葬儀の模様の写真が掲載されていたので、これを手がかりにして探したところ、次の写真の墓碑に出合うことができた。これは霊南坂教会の共同の墓地であった。能恵はここにも眠っているのだと強い確信を持った。

同霊園には、ほかに、斉藤実や新渡戸稲造など岩手県出身の著名人のお墓もある。休日に一度訪ねてみてはいかがでしょうか。

《我は復活なり
生命なり我を
信ずる者は死
ぬとも生きん》

主な行事予定

◎　在京石鳥谷町人会　総　会・親睦交流会　11月6日（日）上野精養軒
◎　岩手県人連合会　新年賀詞交換会　29年　1月末
◎　お花見クルーズ　3月末 ～ 4月頃
問い合わせ・佐藤　忠男　(090)3240-5821
◎　岩手県人連合会　総　会　6月
◎　石鳥谷夢まつり（花火大会）　8月
◎　ふるさと復興支援ツアー　石鳥谷まつり　9月